

日本の速記

2025

1

No.1014



シリーズ 議会豆知識 58「議会事務局の役割」

第 227 回速記技能検定結果

まほろば速記通信③〇「第 4 回奈良速記芸術祭を開催しました」

第 115 回全日本大学速記競技大会実施報告

「日本の速記」2024 年総目次

公益社団法人 日本速記協会

目次

日本の速記2025年1月号

年頭所感 「因循姑息にけりをつけて」	
理事長 保坂 正春	1
役員挨拶	2
シリーズ 議会豆知識 58「議会議務局の役割」	
理事 内田 一夫	4
第 227 回速記技能検定結果	6
同 講評	7
まほろば速記通信③「第4回奈良速記芸術祭を開催しました」	
前川 純二	10
「かぞ生涯学習フェスティバル 2024」に出展しました	16
第 115 回全日本大学速記競技大会実施報告	
採点審査委員長 山城 佐助	18
第5回速記交流合宿開催のお知らせ	20
「日本の速記」のデジタル化について	
広報委員長 保田 良春	22
令和7年度第2回定例理事会 議事概要	24
コラム 「POPEYE」に速記者登場	26
寄附のお願い	27
「日本の速記」2024 年総目次	28
協会本部日誌／伝言板／編集後記	32

表 紙

『太子伝暦』

あけましておめでとうございます。

日本人による最古の肉筆のひとつは聖徳太子による草稿本『法華義疏（ほっけぎしょ）』とのことです。多人数の話を同時に聞き分ける逸話など、書く・聞くにおいて太子の存在感は絶大です。

新紙幣発行の記憶が新しいうちに、かつての主役を表紙に描きました。裏表紙に御座すは頭部が老人で身体が蛇（!）という、ありがたい『宇賀神』です。

（千葉大二郎・硬軟）

年頭所感

ほ 理事長 保坂 正春

申

因循姑息にけりをつけて

明けましておめでとうございます。
今年は、十千十二支で言うところ

「巳（きのとみ）」の年になります。巳には、それまで地中で過ごしていたものが新たに地上に出てきて活動を始める、つまり、今までのことが一旦終わって、新しいことが始まるという意味があるそうです。

そして、蛇といえは脱皮です。協会も四人のフレッシュな理事を迎えましたので、今までとは違って、一

皮むけた新しい姿を見せていきたいと思っています。因循姑息にけりをつけて、思い切って改革の歩みを進めていく覚悟です。

話は変わりますが、皆さんは、NHKの連続テレビ小説、いわゆる「朝ドラ」をご覧になっていますか。

NHKのホームページに公開されている情報によりますと、今年の春から始まる朝ドラのタイトルは「あんぱん」、主人公は「アンパンマン」の作者で、詩人でもある漫画家のやなせたかしさんです。

そして、さらに様々なソースから情報を集めたところ、このドラマのヒロインであり、後にやなせたかしさんの奥様となる小松暢さんという人が、速記の使い手だということが分かりました。ドラマの中で、どれほど速記が出てくるかは分かりませんが、新年に当たり、明るいお知らせになればと思い、紹介させていた

だきました。

協会では、この話題を良い兆しと捉えて、速書き健康大会等のイベントの開催やSNSを利用した情報発信など、幅広い年齢層の方々が速記に興味を持っていただけのような取組を行い、速記の普及に努めていきたいと考えています。

ドラマの主人公のやなせたかしさんは遅咲きの人で、アンパンマンが大人気となり、漫画家として世間に認められたのは七十歳の時だったそうです。

奇しくも、今年は、日本でラジオ放送が始まって百年を迎えます。戦後八十年、日本速記協会が社団法人化して六十年の年でもあります。協会もまだまだ頑張らなければと思います。

本年もどうぞよろしく願います。

「何も成果が出せなかったら一期で辞める」と言っていた。私は彼ほど実力がないので一期では無理だが、「最長三期まで」と決めていた。最後の三期目が始まって既に三か月、少し焦りもあるが、頑張ります。

㊦ 山崎 恵喜 未

今年の楽しみはMLB・大谷翔平選手の手の二刀流復活。マウンドと打席、塁上で躍動する彼の姿をぜひ見たい。協会も、実務分野だけではなくアマ分野の活動を充実させる『二刀流』の取組を展開し、速記の個人利用を広げて、速記の存在を将来につなげていこう。

㊦ 鷲尾 みなみ 西

今回の理事改選では、学生速記の後輩二人が新たに理事となりました。大変感慨深く、心強いです。理事の仕事もありがたいことに二期目に突入

しました。課題は山積しておりますので、時間管理をいま一度見直し、柔軟に対応していければと思います。

㊦ 箱守 晴人 子

昨年は、棋界、スポーツ界で若い人の活躍に目を奪われました。速記協会には若い理事さんがたくさん生まれました。

今年は昭和百年。新しい時代にふさわしい理事会になることが大いに期待できそうです。

㊦ 谷中 和也 子

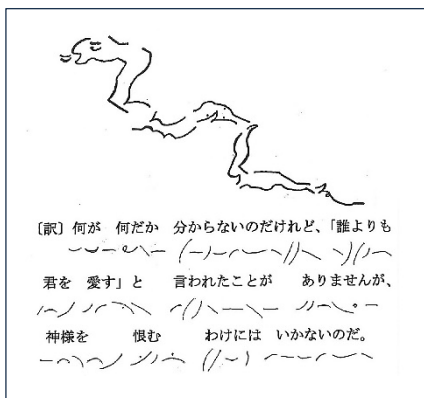
最先端技術の進展は、あらゆる業界において変化をもたらすことと思いますが、速記検定の受検者は最先端技術に身近な若い方が多く、今後の活躍を楽しみにしております。

次世代に向けた変化を受け入れながら、残すものはいい形で継続できれ

ばと思います。
今年度の協会の更なるご発展を祈念いたします。

㊦ 中根 康雄 亥

速記実務界は、AI技術へピン感に対応し、ヘビーな反訳をミごとに軽減できたのじゃから、「ミ来はない」と、スネーなくても大ジャー夫でスネーク。



シリーズ

■議会豆知識 58

議会議務局の役割

今回は議会議務局の役割について考えたいと思います。私は約四十年間、全国都道府県議会議長会という議会活動をお手伝いする団体で勤務させていただきました。その経験からお話をさせていただきますが、あくまで個人的な意見であることをご了承ください。

私の経験から議会議務局を極端に大別すると、議員に対して気軽にものが言える事務局と、議員の言うことに絶対服従の事務局があると考えています。気軽にものが言えると言っても、ため口でなれなくしている、ということではなく、議員に対する尊敬を

基本にして接しているということが前提になります。

この違いがどこから生じているかは不明ですが、多分先輩たちがそのような風土を育んできたのでしょう。ただ総じて気軽にものが言える議会の方がいろいろな問題は発生しないように感じます。気軽に話せるということは、議員も職員と対等に接しようとしていることの表れですので、問題となっていない議員から職員に対するハラスメントも起こりにくいと思います。

これからの議会議務局の役割として大事なものは、このような風通しのよい環境をどうしたら作れるか模索することです。

議会議務局の心構えとして言われたのは、議員を尊敬すること、議員の発言が間違っているとしても即座にNOとは言わないこと、あくまで中立であること、縁の下で力持ちで満足し一線に飛び出さないこと、などです。この

ような心構えは変わらず重要です。それに加えて大事なものは、議員と事務局職員がいかに尊敬しあうか、ということです。

これまで議員と事務局は主従関係のように考えられてきました。この意識をどのように変えていくかは難しい問題です。しかしながら議会制度を維持発展していくためには議員と事務局の協力が不可欠です。議員は政治家として、事務局は議会運営の専門家としてお互いを支え合う必要があります。

そのためには事務局が議員の懐に飛び込んでいく勇気が求められます。議会というのは公務員の世界では特殊な分野です。稟議で決まっていく執行部とは違って、顔で勝負するのが議会です。政治の世界では名刺よりも顔です。いかに議員に自分のことを理解してもらおうにかかってきます。

そのような対等の関係に立つて初めて議員にNOと言えるようになるの

だと思っています。かつてある事務局局長さんから、「ダメなことはダメと言うことも事務局の仕事だ」と言われた事があります。場合によっては堂々とNOを発することで、問題が発生するのを止めるのも事務局の仕事です。

これは国会に長く勤務されていた方が記されたことですが、最近の事務局は自分たちの価値観を持たないで、「委員会の決定に従います」と平気で言う、ということです。議員の判断とは別に事務局としての判断を持ち、もし間違った方向に進みそうな場合は堂々とNOを言えるようにしておくことが必要です。

衆議院の法制局長を務められた西澤哲四郎氏は、「最後の一线は死守すること」が議会事務局の役割だ、とされています。そのためには、職員は法規先例等について、十分勉強し、細大漏らさず頭のなかに叩き込んでおく必要がある、としています。

私は東京都議会で一年間研修させていただきましたが、その時間聞いたのが、「管理職が異動後三か月経って担当業務について聴かれたときに「わからぬ」と答えたら管理職失格だ」ということでした。それだけ管理職には責任がある、ということでしょうが、議会事務局の仕事は異動のその日から完璧にこなさなければなりません。よりシビアな職場ということです。それだけに事務局の仕事に対する議員の理解が重要になります。

事務局が議員の活動に対して提案をしていいのか、というのも難しい問題です。風通しの良い議会でもこれは別の問題になると思います。

結論的には対象となる問題による、ということになるのではないのでしょうか。議員同士の議論が行き詰まっている場合などは、参考までに、ということとで事務局が発言することも必要だと思います。

事務局は立場上ストレスがたまり、あまり体にはいい職場とは言えないかと思いますが、反面、それぞれの自治体の業務を俯瞰的に見られるという長所があると思います。そこで得られた行政上の課題や住民の思いなどはきつと執行部に異動しても役立つと思います。風通しの良い職場づくりは自分たちのためでもあります。難しい課題だと思いますが、新しい議会のためチャレンジされんことを切望いたします。

理事 内田 一夫

元全国都道府県議会議長会
事務局次長 議事調査部長

次回は「議員派遣と委員派遣①
― 委員派遣 ―」を予定しています。

第5回 速記交流合宿 開催の お知らせ（詳細）

山田雪乃

日程

二〇二五年二月二十一日（金）
二十四日（月・休）

場所

大城ビル2階・エブリグランデ新大阪
（以下、エブリグランデ）
大城ビル4階・グローブ
（以下、グローブ）

KOKOPLAZA大阪市青少年
センター（以下、ココプラザ）

アクセス

大城ビル

新大阪駅東口から徒歩一分

ココプラザ

新大阪駅東口から徒歩七分

概要

朝から夜まで、ひたすら速記の練習をしています。途中参加、途中退出もできますので、ご自由にご参加ください。

二十二日には懇親会①（場所は未定）と速記競技大会（関西速記オープンニ〇二五）、二十四日には懇親会②（場所は未定）と速記技能検定もあります。

関西速記オープン

関西速記オープンとは、二〇〇四年に二回、二〇〇五年に一回、関西

圏の速記学習者を中心に行われていた速記競技会のことです。

今回採用する大会形式は、音声を低速度から高速度まで順番に流し、自分に合った速度の階級で速記をするというシャトルラン方式です。階級は分速八十字から三百六十字まで九階級用意します。選手は自分の限界まで高速度の階級に挑戦でき、反訳できそうな階級に出場できるといのが魅力です。

一つの方式につき、一階級出場できますので、複数階級で優勝を狙えます！

持ち物

- ・速記用シャープ
- ・原文帳などの速記用紙（現地販売あり・二百枚で六百円）
- ・赤青緑の三色ボールペン
- ・イヤホン
- ・練習用問題文（持っている方のみ）
- ・用字用例辞典（持っている方のみ）

日 程	スケジュール	会 場
2月21日(金) 参加予定者 27人	・ 9:00～22:00 練習	【メイン会場】 ココプラザ 504
22日(土) 参加予定者 42人	・ 9:00～18:00 練習 ・ 12:00～18:00 (予定) 速記競技会 「関西速記オープン 2025」 ・ 18:30～20:30 懇親会①	【メイン会場】 エブリグランデ 【サブ会場】 グローブ
23日(日・祝) 参加予定者 35人	・ 9:00～22:00 練習	【メイン会場】 エブリグランデ 【サブ会場】 ココプラザ 801
24日(月・休) 参加予定者 29人	・ 9:00～17:45 練習 ・ 13:00～15:00 (予定) 第228回速記技能検定分試験 (3～6級のみ) ・ 18:00～20:00 懇親会②	【メイン会場】 ココプラザ 504 【サブ会場】 ココプラザ 300

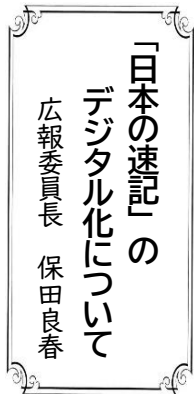
費用

- ・ 参加費 一日あたり二千元
(日本速記協会員は千円)
 - ・ 懇親会費 一回あたり四千元
 - ・ 関西速記オープン参加費 無料
 - ・ 宿泊費 一泊あたり三千九百円
(宿泊先はココプラザ併設のユー
スホステル)
- 団体宿泊を希望されない方は個人
で宿泊先を見つけてください。
日帰り参加も可能です。

最後に

第五回速記交流合宿への参加を
検討されている方は、こちらのメー
ルアドレスに御連絡ください。初心
者の方もプロの方も大歓迎です。速
記の学習やイベントを通して交流
を深め、一緒に盛り上げていきまし
ょう！ 皆様の参加を心よりお待
ちしております。

速記交流合宿運営主催・山田雪乃
sokkibiyor@gmail.com



十二月号の巻頭言で「日本の速記」をデジタル化することについて少し触れましたが、「突然何を？」と驚いた方もいらっしゃるようなので、現況について少し御報告させていただきたいと思います。

昨年十二月二十一日の理事会に、私のほうから、「日本の速記」のデジタル化について、できれば本年四月号から実施したいと提案させていただきました。一月号、二・三月号で会員の皆さんにその旨をお知らせするとともに、従来どおり印刷物での送付を希望する方はその旨を御連絡いた

だく形で、それにより印刷・発行経費の大幅削減を行いたいと考えていると御提案しました。

理事会の中では、私の案に全面的に賛成という御意見の方もいらっしゃるいましたが、多くの理事の方から「拙速」、「もっと丁寧な検討が必要」といった意見が出され、いわゆる継続審査となりました。したがって、具体的なことは何も決まっていません。

「日本の速記」のデジタル化によるメリットとしては、文字や写真の大きさを読み手が自由に変更できる、記事内の写真を鮮明なカラーでお届けできる、自由な色の文字を使用できる、検索が可能となる、保管場所をとらない、などが挙げられます。また、編集者側としても、印刷に係る校正事務がなくなる、発送事務がなくなる、ページ数や判の制約がなくなる、印

刷・発送にかかる経費が不要となるといったこともあります。

もちろん、デジタル環境の整わない方への対応や公開の具体的な方法など、考えていかねばならない項目もたくさんありますが、全体としてメリットのほうが多いのではないかと考え、今の時代、なるべく早く実現したいと考えての御提案でした。

しかし、冷静に考えてみると、「拙速」という意見に代表されるように、少し急ぎ過ぎた嫌いは確かにあるなと、素直に反省もしています。「四月号から印刷は原則やめてデジタルでいきたい」と考えていましたが、理事会の中で出された、「印刷は従来どおり継続しながら、まずはデジタルでもいいという人を募ってはどうか」というものなど、なるほどと思う意見もありますので、今後も引き続き協議

をしていただこうと思っています。

なお、前回の理事会で、理事全員をメンバーとする経営基盤強化委員会が設置されましたので、「日本の速記」のデジタル化についても、主な検討はそこで行われていくことになると思っています。

「機関誌は冊子で届けてもらうほうがいい」と、多くの方はそうお思いでしょう。私も全く同感です。ただし、御存じのように、今年度の協会の予算は赤字予算となっています。財政状況はかなり厳しい状態で、「あと二年もつか」というようなことも言われてきました。

財政が潤沢で、発行事務に関わる人員も豊富にあるなら、従来の形を大きく変える必要もないでしょう。しかし、実態はどうもそうではないようです。なので、私からは「タイムリミッ

トはいつか」という質問を投げかけさせていただきました。まだ十分な時間があるならじっくり検討すればいいし、もう一年しかないというのなら、やはり急がねばなりません。

ということで、今後の議論の状況については必要に応じてお知らせしたいと思いますし、逆に、会員の方から「私はこう思う」というような御意見も頂戴できるとありがたいです。

なお、「保田は突然何を言い出すんだ」と思われた方もいらっしゃるでしょうから、少しだけ弁解させていただきます。

私は、もう随分前から「日本の速記」のデジタル化について訴えてきました。二〇〇五年六月号に二十一世紀開発委員会が出した意見が紹介されていますが、もう二十年以上、訴え続けてきたことになります。特に、四年前に

理事になってからは、理事会の中でも何度も提案させていただきました。

しかし、その都度出される「できない理由」は、二十年前と全く変わっていません。そういうことに對する苛立ちがあるところに、深刻な財政危機という問題が明らかになったので、ちよつとアクセルを踏み過ぎたということです。申し訳ありません。

「日本の速記」については、「機関誌とは何か」といったところから様々な議論をし、その方向性を決めていくべきだとは思っています。しかし、果たしてその時間があるのかどうか。時間はあつという間に過ぎていきます。令和七年度がスタートして、既に四か月です。私が想定していた四月には、既に年度の半分以上が終わってしまっています。「拙速」は駄目ですが、「急ぐ」必要はあるのだと思っています。

寄附のお願い

公益社団法人日本速記協会

理事長 保坂 正春

日本速記協会は、速記の普及並びに歴史・文化の継承とともに、正確な発言記録の作成を支援する活動を行っています。

しかしながら、これらの活動を支える会費収入は年々減少しております。
速記を未来につなげていくために、広く皆様方よりご寄附によるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◎寄附金振込先

- ・郵便局（ゆうちょ銀行）からお振込みの場合

番号 00110-2-53583 加入者名：公益社団法人 日本速記協会
※振込票の「通信欄」に「寄附」と記載してください。

- ・銀行からお振込みの場合

みずほ銀行 町村会館出張所

普通預金 1001509 公益社団法人 日本速記協会

◎領収書の発行について

寄附金拝受後に「領収書」と「税額控除に係る証明書」を郵送します。

領収書の発行日は、寄附金の入金日となります。

◎税制上の優遇措置について

公益法人へ寄附を行った場合、寄附金の額に応じて個人または法人の所得から一定額を控除する等の税制上の優遇措置が設けられています。

◎問合せ先

公益社団法人日本速記協会 事務局

〒171-0033 東京都豊島区高田 3-10-11 KG ビル4階

Tel : 03-6205-9701 Fax : 03-6205-9702

e-mail : info@sokki.or.jp

第 228 回速記技能検定のお知らせ

☆日 時 令和7年2月23日(祝・日) 13:00～

オンライン方式(ＩＢＴ型)

インターネットを通じて自宅等で受検していただく方法です。

☆実施級 6級から3級まで

☆受検料 6級 2,000円 5級 2,500円 4級 3,000円 3級 4,000円

☆受付期間 1月1日～2月10日

※申込方法：日本速記協会HPの受検申込みフォームから

☆朗読速度・朗読時間・反訳時間等一覧表

	6 級	5 級	4 級	3 級
分 速	80 字	120 字	180 字	240 字
朗読時間	5 分	5 分	5 分	5 分
総 字 数	400 字	600 字	900 字	1200 字
反訳時間	60 分	60 分	60 分	60 分
正 確 度	96 %	96 %	97 %	97 %
許容失点	16 字	24 字	27 字	36 字

☆次の検定予定

第 229 回 令和7年5月25日(日) 札幌、盛岡、東京、名古屋、大阪、福岡

日本の速記 2025 年 1 月号

発行日 令和7年1月1日

発行人 保坂 正春

編集人 保田 良春

発行所 公益社団法人 日本速記協会

〒171-0033

東京都豊島区高田 3-10-11 K Gビル4階

電話 03(6205)9701 F A X 03(6205)9702

Eメール info@sokki.or.jp https://sokki.or.jp/

印刷所 日本印刷株式会社 〒170-0013

東京都豊島区東池袋 4-41-24 東池袋センタービル

新年おめでとうございます
皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします



令和7年 元旦 公益社団法人 日本速記協会

「日本の速記」 令和7年1月1日発行 (毎月1回1日発行) 第106年通巻1014号